

平成 21 年度第 7 回理事会次第

日 時 平成 22 年 1 月 16 日 (土) 10 : 00

会 場 千葉県労働者福祉センター 401 会議室

1. 出席者及び資料の確認

2. 開会

3. 会長挨拶

4. 議 題

(1) 報告事項に対する質疑

(2) 議事(案)

1. 平成 22 年度事業計画および予算案について

2. 役員選挙について

3. 平成 21 年度第 2 回総会議案について

(3) その他

5. 閉会

三団体協議会打ち合わせ記録表

日時	平成 21 年 12 月 6 日 13 時 00 分～15 時 00 分
場所	千葉県社会福祉センター4F 会議室
出席者(人数)	県社会福祉士会 6 名、MSW 協会 3 名、PSW 協会 2 名
当会出席者	三橋・山崎・目黒・神山・桜井・鈴木 (敬称略)
1.	<p>三団体合同研修会企画案</p> <p>日時：平成 22 年 2 月 28 日 (日) 13:00～16:30</p> <p>会場：千葉県民文化会館</p> <p>定員：99 名</p> <p>講師：市川市社会福祉協議会 山崎 泰介 氏</p> <p>テーマ：『本人の自己決定を大切にするために』</p> <p>市川市社協の発行している『心の遺言ノート』を参考に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クライアントの死の周辺に関わるケース対応の困難さに対応する支援の参考として ・ クライアント自身の「セルフ・アセスメント」支援 ・ SW自身の振り返り、セルフ・アセスメントのために
2.	<p>MSW協会と社会福祉士会の一部業務委託について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ MSW協会のホームページを社会福祉士会のホームページの一部を借りて立ち上げられないか、との提案があり、技術的な問題は神山副会長と協議することとし、方向性としてはHPの一部共有を進めていくこととしたい。 ・ MSW協会と社会福祉士会のHPを共有することは、HPを見る人にとって情報の集約がされていること、両会の関係が密接であることが伝わり有意義である。
3.	<p>三団体で研究大会の合同開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各団体の総会は個別に開催し、その後の研究大会を合同で開催することについて前向きに検討したい ・ 共通テーマの基調講演の他、分科会の開催はどうか ・ 同じSW業務に携わるものへの発言を行う機会にする ・ 三団体が合同で行うことで社会的にSW業の存在のアピールを狙う。 ・ グループワークは行わない(三団体研修との違い) ・ PSW協会は以前から、年一回の総会とその後の研修に力を入れており、全体の25%の参加率である。 ・ 三団体がそれぞれ総会を開き、300人規模の基調講演が行え、さらに分科会の場所を確保できる会場があるか、が課題。大学はどうか？淑徳大学であれば、検討してもらうことは可能と思われる。また、大学で行うことで学生の参加も期待でき、今後の人材確保にもつながるとと思われる。 ・ 平成22年度はMSW協会が50周年を迎えることもあり、記念式典があるため、平成23年度以降の開催を想定することとしたい。

◎ 今後も継続審議としたい。(社会福祉士会は企画部会が担当)

4. ソーシャルワーカー・デイの活動について

- ・ 平成 21 年度は日本社会福祉士会が三団体の本部と日本 SW 協会とで 2 日間の講演等のイベントを開催したが、魅力的な内容とは言い難いものであった。来年度以降、千葉では独自のイベント等を開催することとしたい。
- ・ 総会後の研究大会を合同開催とすると、現行の三団体研修と日程的に近いため、今後三団体研修を 7 / 21 の SW デイに移行する方向で検討する。
- ・ この協議会で内容の詳細までは決められないので、三団体研修のワーキングチームで内容を検討することとし、平成 23 年からの実施をにらみ、平成 22 年度はプレ開催としてはどうか。
- ・ 協議会でどんなものが求められるかブレインストーミングを行う。

5. その他

- ・ 次回開催は 3 月 20 日 (土) 13 : 00 ~ を予定。場所は社会福祉センター 4 階会議室とする。
- ・ 「ソーシャルワーカー・デイについて」を引き続き議題としたい。

三団体合同研修打ち合わせ 報告

12月6日(土) 15:30～ 社会福祉センター4階 会議室

出席者(敬称略、50音順)

講師:社会福祉士会 山崎会長

医療社会事業協会:高橋、浪川

精神保健福祉士協会:安藤、松田

社会福祉士会:桜井、鈴木

◎ 研修内容について、講師との打ち合わせ

－『心の遺言ノート』製作のきっかけ

地域に関わる市民との協働のあり方を検討している中で、地域で暮らす人が迎える「死」の場面にどう関われるか、に話が及んだ。そこで、自分の意思を伝えるツールとして法的な遺言ではなく、簡単に書けるものであり、今まで暮らしてきた自分のイメージを第三者に伝えられるようなものを作りたい、という案があがってきたことから製作が開始された。

－製作にあたっての方針と配慮した点、

- ・ 字を大きくした
- ・ ページ数を少なくし、必要に応じて足せるようにリングファイル形式にした。
- ・ 「死んだ後」だけではなく「認知症などになった場合」でも、これまでのライフスタイルを保障できるような内容を盛り込んだ。
- ・ 「自分史」の書きにくさを改善し、穴埋め方式を採用した。
- ・ 年金証書や必要な書類をまとめられるようなクリアポケットを足した。
- ・ 司法書士からのチェックを受けている。
- ・ 一般的には掲載しにくい、「認知症になった時のために」や葬祭にかかる費用についての資料も掲載した。

－研修会で活用するアイデアとして

- ・ SWとして遭遇する「死の前後」の期間への対応の大変さを緩和する技術として。
- ・ クライアントの「セルフ・アセスメント」の手段として
※「本人から出て来た言葉」に基づいた支援でなければ、その後の効果が現れない。
- ・ SW自身の「セルフ・アセスメント」の手段として
- ・ 実際に『心の遺言ノート』を書いてみる、というのは経験として良いが、個人作業になってしまうことと、コピーを配布しての使用は出来ないため不採用
- ・ 「自分史」を伝えるのに、SWから口頭で聞き取りを受けるのと、書類に記入するのでは受ける感じがどのように変化するか、を体験するのはどうか

◎ ワーキング・チームでの内容の検討

－グループワークの際の課題として何をするか。

- ・ ワーキング・チームの望む研修の主旨は、「SWに「アセスメント」の重要性について再確認して欲しい」ということ
- ・ アセスメントを行う際に、手元にあるアセスメントシートにどんな項目があると使いやすいかを考える作業を、グループで意見を出し合いながら進める
- ・ 「氏名」や「住所」など、基礎情報に時間を取られないように、ある程度の基礎的な項目につ

いては掲載されている書式を用意し、そこにいかなる項目を加えるかを作業の内容としてグループにて作業を行うこととしたい

- ・ 漠然と書式だけ渡されてもとっかかりが無いため、基礎情報部分は「ある高齢者」の情報を事前に掲載しておき、その情報以外に何を聞きたいか考えてもらうこととしたい。
- ・ 当日の基礎的な情報の部分については、社会福祉士会の鈴木が架空の事例を用意するので、後日ワーキングチームに確認を依頼する。

ー当日タイムスケジュールについて

- 13:00 受付開始
- 13:30 開会、講師紹介
- 13:40 講演開始
- 14:50 休憩
- 15:00 グループワーク開始
- 16:10 グループ発表及びまとめ
- 17:00 完全撤収

◎ H21.12.10 企画部会での追加意見

- ・ 「アセスメント力」不足の相談員が多くなっていることが問題
- ・ 聞かなければならない大事な項目を落としてしまうことがある。
- ・ 聞きづらいことは聞けない、という相談員がいる。
- ・ その項目を「聞き取る意味」を理解していないことが原因と思われる。
- ・ 倫理綱領において「目的外の聞き取りは禁じられている」ことを伝える。

◎ H21.12.10 企画部会でのその他のトピックス

☆ 三団体研修のチラシに掲載する文言について検討(完成版は別紙参照)

☆ 平成 21 年度第 2 回地域集会世話人会について

- ・ 日程は 3 月 14 日の総会の後を想定し準備を行う。

☆ 福祉塾について

- ・ 今年度市原地区での開催を予定しているが、現時点で世話人からの開催計画の連絡および協力要請がない。改めて進捗状況の報告を求める。

☆ 広報活動活性化事業案募集の一次審査について

- ・ 採点表を作成し、各部会員による審査を行いその結果を元に広報部会と合同で総務委員会を開催することとした。委員会は 1 月中の開催が望ましい。
- ・ 予算案の提出との兼ね合いがあるが、現時点で具体的な予算及び事業計画を立てる段階ではない。来年度の事業準備にかかる予算のみを計上することとする。
- ・ 応募された案に『自殺』にまつわるものが 2 件あったが、研究大会のテーマとして取り上げるという形も選択肢として検討したい。

会議記録票

日時	平成 21 年 12 月 15 日 19 時 15 分～21 時 30 分
場所	あずみ苑井野
出席者(人数)	8 名
スタッフ	神山・鈴木・瀧澤・山口定・山口利・松本・森(順不同)
<p>1. 広報活動活性化事業について(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 件の応募があった。 ・ 一次審査の方法は効率化を考え、採点表にて部会員各自が採点をし、それを集計したうえで、総務委員会を開催することとした。 ・ 採点表については鈴木が作成し、近日中に、部会員にメールするので、締め切りにしたがって返信する。 <p>2. 来年度予算について(報告)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『点と線』の発行回数については、部会でも『点と線』の発行に追われ他の活動を広げることが困難になっている状況もあり、来年度は、発行を 3 回とすることとなった。 ・ 研究誌『社会福祉研究』の発行回数の変更に伴い、会員からの記事の応募を掲載するスペースを紙面として確保することとし、更なる紙面の充実を図る。 <p>3. 『点と線』の発行にあたり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校正のやり方について見直す。校正をページごとに 2 人 1 組で校正担当を決めて行い、それをもとに校正会議を行う。 ・ 12 月発行の 71 号でオリジナルのイラストを取り入れたが、紙面の雰囲気も柔らかくプレートも上がり良かったので、次号も継続したい。 ・ 来年度は編集の余裕をもってするためにも特集を年間で計画を立てるなどの方法を検討したい。 ・ 来年度は会員からの投稿などをもっと取り入れていきたい。そのためにどんな紙面を希望するか 72 号で読者へ呼びかける。 ・ 72 号で部会員を募集する。 ・ 72 号の特集記事は、当会が受託した千葉市のモデル事業に関するものとする。 ・ TOPICS について、佐倉市のがん緩和ケアを支えるネットワークづくりについて候補があがったが、平成 22 年 7 月発行予定の(73 号)の特集で取り上げることとする。特集は、瀧澤、山口利が担当する。今回は、がん患者家族総合支援センターが進めているネットワークづくりとからめて記事提供者をあたることとする。 ・ 地域集会は、山武地区世話人へ記事提供を依頼する。 	

<『点と線』第72号の流れ>

- ・ 1/22 原稿〆切り【原稿提出用アドレスへ直接原稿送付】→
- ・ 1/29 【編集担当】ベタ記事送付【担当理事2名・部会長へ】→
- ・ 1/29～2/4 【担当理事から三役へ】三役チェック期間【三役から担当理事へ】
- ・ 2/4 【担当理事・部会長】ベタ記事の内容検討後、返信【編集担当へ】→
- ・ 2/8 【編集担当】編集終了【1次校正担当へ編集原稿送付】→
- ・ 2/12 【1次校正担当】第一次校正終了→【全部会員へ1次校正原稿送付】→
- ・ 2/15～22 校正会議→
- ・ 3/1 業者への入稿→
- ・ 3/15 ～発送作業

<『点と線』第72号の内容について>

- ・ 表紙及びリード文 P.1 担当：瀧澤
 - ・ 特集記事（千葉市モデル事業） P.3 担当：神山
 - ・ 研修会報告（ばあとなあへ依頼） P.1 担当：鈴木（執筆依頼）
 - ・ 地域集会報告（山武） P.1 担当：鈴木（執筆依頼）
 - ・ コラム（公益法人制度） P.0.5 担当：鈴木
 - ・ 時事トピックス（がん緩和ケア） P.1～2 担当：山口利（執筆依頼）
 - ・ 社会福祉士の輪 P.1 担当：五十嵐（執筆依頼）
 - ・ 広報部会からお知らせ p.0.5 担当：森
 - ・ 事務局だより P.2 担当：鈴木（執筆依頼）
- ・ 「地域集会」「基礎研修会報告」「社会福祉士の輪」「時事トピックス」には、写真を依頼する。あるいは、関連性の高いイラスト等。

<その他>

- ・ 平成21年12月21日開催の、保護観察所連絡協議会（高齢者・障害者施策に冠する協議会）にて、触法障害者・高齢者の地域定着支援センターの設置について、啓蒙活動の協力依頼があったため、追加記事として3月発行の第72号への原稿掲載を行う。
- ・ 原稿執筆依頼は、協議会の出席者の千葉刑務所在籍の社会福祉士で当会会員の犬伏謙介氏に行う。

三団体協議会プレゼンツ

千葉県医療社会事業協会

千葉県精神保健福祉士(PSW)協会

(社)千葉県社会福祉士会

『地域で生きる』を支援する

～ 本人の自己決定を大切にするために ～

あなたは、どれくらい“その人”のことを知っていますか？おはようからおやすみまで「暮らし」に寄り添った支援をできているでしょうか。今回は「心の遺言ノート」を題材に、アセスメントの極意を学びます。このノートには“最後まで自分らしく生きるために、遺志だけでなく日々の暮らしぶりも伝え、自分を振り返ってみてほしい”、そんな思いが詰まっています。

ソーシャルワーカーに、いま求められていることは何か。原点にかえってアセスメントの大切さを見つめてみませんか？

記

- | | | | |
|----|---|---|---|
| 1. | 日 | 時 | 平成 22 年 2 月 28 日(日) 13:30～16:30 (受付 13:00) |
| 2. | 場 | 所 | 千葉県文化会館 第 1・2 会議室 |
| 3. | 内 | 容 | ◆講演 : 市川市社会福祉協議会 山崎 泰介 氏
(千葉県社会福祉士会 会長)
◆全員参加のグループワーク |
| 4. | 参 | 加 | 今年も破格の500円！(資料をご希望の方は裏面をご参照ください) |
| 5. | 懇 | 親 | 会
17:30から懇親会を行います。(場所は当日ご連絡)
懇親会参加費:4000円※当日キャンセルはご遠慮ください |
| 6. | 申 | 込 | 締切
平成 22 年 1 月 31 日 (☆研修会定員99名 定員になり次第×切) |

会場案内

JR 本千葉駅から徒歩 10 分、モノレール県庁前駅から徒歩 7 分、京成千葉中央駅から徒歩 20 分

【申込方法】 下記の申込先まで、FAXか Eメールにてお申込みください。

(社)千葉県社会福祉士会 事務局

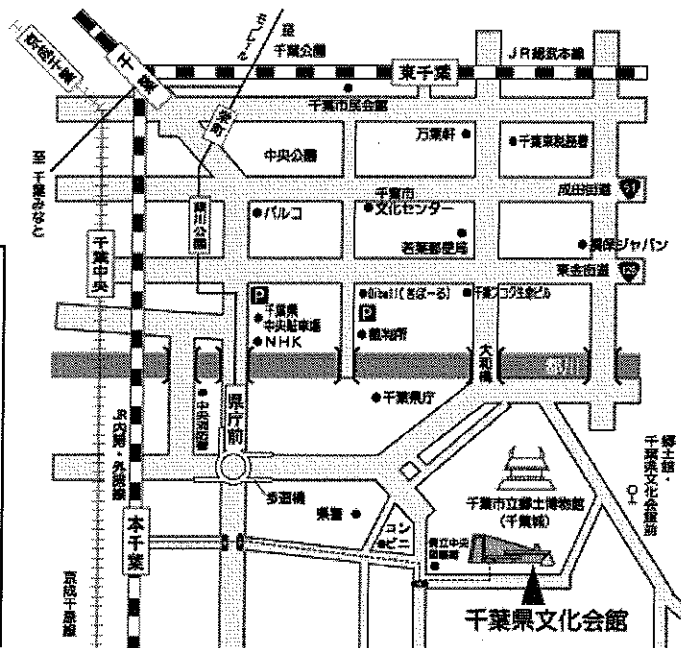
住所 : 千葉県千葉市中央区千葉港4番3号

千葉県社会福祉センター4F

TEL : 043-238-2866

FAX : 043-238-2867

Eメール: office@cswchiba.com



『地域で生きる』を支援する 参加申し込み用紙

下記の内容をFAXもしくはEメールにて、お申し込み下さい。

※FAX番号 043-238-2867

※Eメール office@cswhiba.com

お名前 _____

勤務先 _____

連絡先(電話) _____

連絡先(Eメール・FAX) _____

懇親会 参加 ・ 不参加 (どちらかに○をつけてください)

★当日の資料について

市川市社会福祉協議会発行の『心の遺言ノート』をお持ちの方は、当日ご持参ください。研修参加と合わせて『心の遺言ノート』を申し込むこともできます。ご希望の方は下記の口に✓を記入し、資料代1,050円を当日ご持参ください。また、日頃の業務で使用しているアセスメントシート等がある方は是非ご持参ください。

『心の遺言ノート』を申し込みます(資料代:1,050円)

★テーマへの質問等をお寄せください。

※お申し込みの際に、定員に達した等の理由によりご参加いただけない場合、及び緊急の必要が生じた場合は事務局から連絡申し上げます。それ以外は、こちらからは連絡いたしませんので、当日そのまま会場までいらしていただくようお願いします。

地域包括支援センター部会報告事項

報告事項

①12 月 15 日の話し合いについて

千葉県庁にて 12 月 15 日午後 7 時～9 時まで話し合いを行った。

次回以降は高齢者虐待対応専門職チームに参加するメンバーの研修を実施することとなった。

②高齢者虐待防止対策研修について

県は研修を 50 人定員×4 回の開催を希望していたが、昨年と同様の定員 100 人×2 回の開催に決定した。

そのため研修請負額が 57 万円に減額となった。

検討事項

①高齢者虐待対応専門職チームの事務的な流れについて

高齢者虐待対応専門職チームに関する事務は事務局で取りまとめて行う。

派遣時に対する報酬の請求は事務局が取りまとめて、県に報告する。支払いに関しても、県からまとめて事務局に支払いし、10%の事務局経費を差し引いたうえで出席者に支払うことを承認いただきたい。

②高齢者虐待防止対策研修に講師謝礼について

研修の講師謝礼は県の基準に合わせ、社会福祉士会の規定の金額の倍で予算を作成した。

ただし、研修時間が 1 時間 15 分、1 時間半と 2 時間に満たない講師に関しては時間に合わせて謝礼を減額した。

高齢者虐待防止対策研修

(1) 平成22年1月27日(水)

9:30～9:50 受付

9:50～10:00 開会挨拶 千葉県健康福祉部高齢者福祉課

10:00～12:00 【演習】介入困難事例の検討

・情報収集、図式化、アセスメント、本人、家族へのアプローチ

講師：千葉県社会福祉士会 須田 仁氏

※適宜、休憩をはさみます

12:00～13:00 昼食休憩

13:00～15:00 【講義】虐待対応支援計画の理解

・地域包括支援センターにおける虐待対応の流れ

・虐待対応支援計画におけるアセスメント

・個別ケース会議と虐待対応支援計画の検討、計画の実行と終結

講師：東京都 高齢者権利擁護支援センター

社会福祉士 川端 伸子氏

15:00～15:15 休憩

15:15～16:30 【講演】高齢者の権利擁護と虐待対応

・権利擁護の必要性、権利侵害から護る責務の理解

講師：いけだ後見支援ネット

社会福祉士 池田恵利子氏

16:30～16:45 閉会挨拶 (社)千葉県社会福祉士会

高齢者虐待対応専門職チームの取組み

(2) 平成22年2月25日(木)

9:30～9:50 受付

9:50～10:00 開会挨拶 千葉県健康福祉部高齢者福祉課

10:00～12:00 【演習】「やむを得ない事由措置」事例の検討

・判断の根拠、アセスメント、本人、家族へのアプローチ、分離の実際

講師：千葉県社会福祉士会 須田 仁氏

※適宜、休憩をはさみます

12:00～13:00 昼食休憩

13:00～14:30 【講義】虐待対応支援計画の理解

・高齢者虐待対応の流れ、虐待対応支援計画におけるアセスメント

・個別ケース会議と虐待対応支援計画の検討、計画の実行と終結

講師：埼玉県福祉部 高齢者福祉課

高齢者虐待防止担当 小林 ミドリ氏

14:30～14:45 休憩

14:45～16:15 【講義】高齢者虐待防止法の理解

・高齢者虐待防止法における市町村の責務(権限)を理解する

講師：きづかわ共同法律事務所

弁護士 青木佳史 氏

16:15～16:30 閉会挨拶 (社)千葉県社会福祉士会

高齢者虐待対応専門職チームの取組み

平成21年度千葉県高齢者虐待防止研修予算内訳書

(社)千葉県社会福祉士会

(支出の部)

大科目	中科目	小科目	予算額	備考
報償費			182,500	
	講師謝礼		162,500	
	市町村向け1/27	川端伸子先生	30,000	2時間
		池田恵理子先生	22,500	1.25時間
		須田仁様	30,000	2時間
	包括職員向け2/25	小林ミドリ先生	25,000	1.5時間
		青木佳史先生	25,000	1.5時間
		須田仁様	30,000	2時間
	当日スタッフ手当		20,000	
		スタッフ手当(1回5人)	20,000	2000×5×2
旅費	交通費計		91,000	
	講師交通費		61,000	
	市町村向け1/27	川端伸子先生	5000	
		池田恵理子先生	5000	
		須田仁様	3000	
	包括職員向け2/25	小林みどり先生	5000	
		青木佳史先生	40000	
		須田仁様	3000	
	研修のための打ち合わせ交通費		10000	
		5名分	10000	
スタッフ交通費		20000		
	10名分	20000	2000×5×2	
需用費			190,630	
	印刷製本費		134,000	
		資料作成依頼	134,000	67000×2(140部作成)
	報告書作成費		10,000	
		スタッフ手当	10,000	
	印刷費用		30,000	
			30,000	
運営費		16,630		
	講師昼食	6,000	1000×3×2	
	消耗品代	10,630		
役務費			30,000	
	通信費		30,000	
		切手代	10,000	100×100
		電話代	20,000	10000×2
使用料及び賃借料			44,870	
	使用料		44,870	
		会場使用料	44,870	教育会館
合計			539,000	
消費税			26,950	
総計			565,950	

相談事業部会報告事項

①12 月 21 日開催高齢者・障害者施策に関する連絡協議会について

地域定着支援センターについて予算を組み、2 月議会に提出予定。

2 月議会を経て、定着センターの公募を行い、来年の 6、7 月に正式に開所予定の見込み。

モデル事業中間報告は県内 2 事業所において比較的軽微な案件 2 件をモデル事業として実施している。

千葉刑務所の代表に当会所属の社会福祉士が出席しており、すでに退所支援を実施している。

・地域に帰そうとする対象者は絶対に他害などの重い刑を持ったものは依頼しない。

・刑務所からの依頼というだけで障害者施設の相談員は断ってくる。

など誤解や偏見が非常に強い。まずは社会福祉士会からその誤解や偏見を解くよう発信してほしいとの発言があった。

②今後の予定について

相談事業部会研修 上手なストレスとのつきあい方

1 月 23 日開催

淑徳大学合同ジョブフェア

2 月 8 日開催 部会員山本さんが出席予定

高齢者・障害者施策に関する連絡協議会

日程 平成21年12月21日(月)13時～

場所 千葉地方合同庁舎5階会議室

次 第

1 自己紹介

- ①千葉県
- ②千葉市
- ③千葉刑務所
- ④八街少年院
- ⑤明朗塾
- ⑥オリーブの樹
- ⑦千葉県社会福祉協議会
- ⑧千葉県社会福祉士会
- ⑨千葉保護観察所
- ⑩千葉市保護司会連絡協議会

2 協議事項

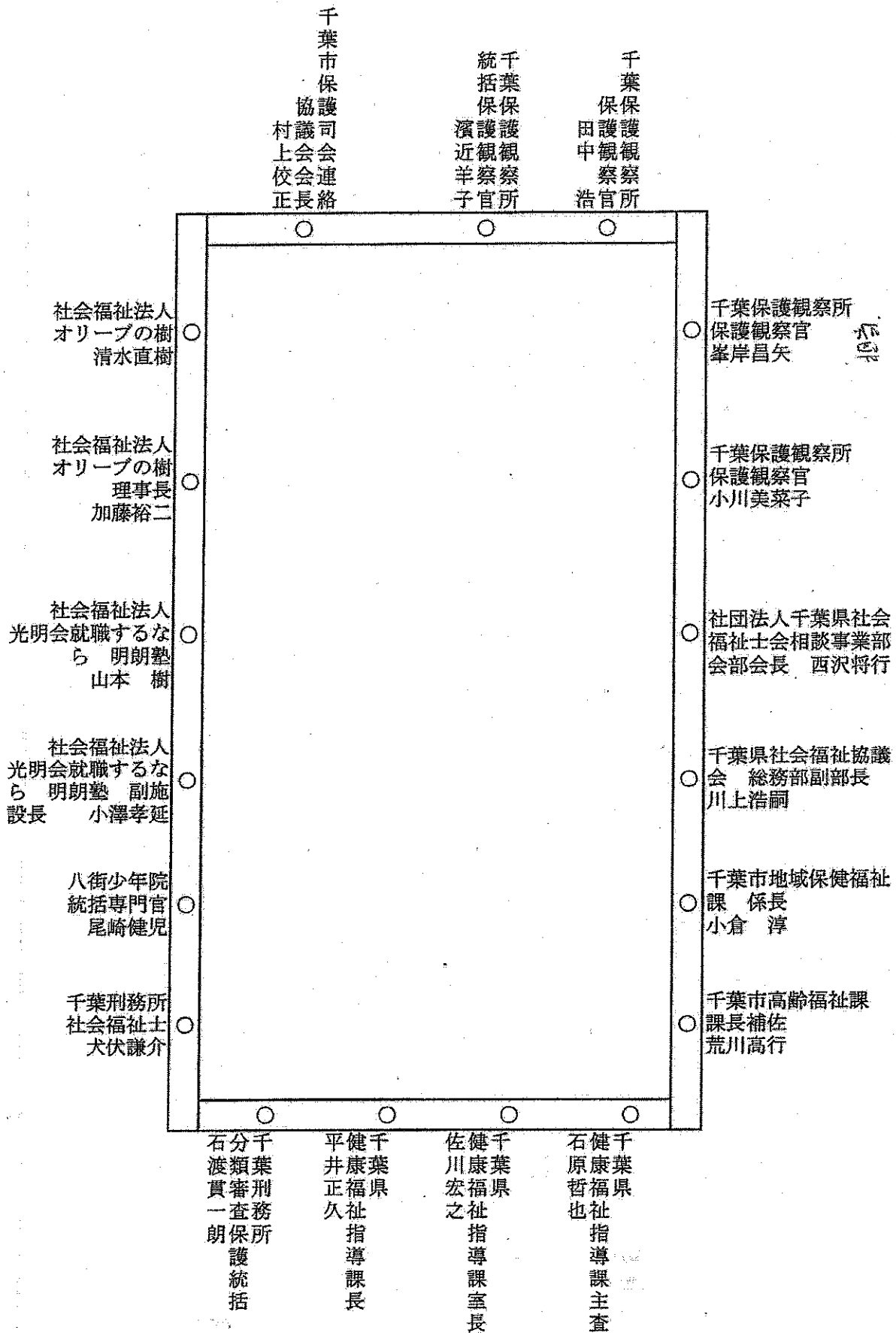
(1) モデル事業の中間報告について

- ①事例1について(明朗塾帰住ケース)
- ②事例2について(オリーブの樹帰住ケース)

(2) その他

- ①次回の連絡協会時期
- ②その他

平成21年度第2回連絡協議会 配席図 (敬称略)



研修啓発部会

〔報告事項〕

- ジェイシー教育研究所 WEB 模試 12月19日20日に終了
- 直前模試 平成22年1月10日・11日開催 参加者20名
- 東京成徳大学 受験対策講座 1月14日(木)で終了
- 実習指導についての社会福祉士養成校との打ち合わせ
→平成22年2月4日(木)
- 実習指導者講習会について
→平成22年2月16日(火)17日(水)開催

A. ぱあとなあ千葉第 6 回運営委員会

1. 実施日時：平成 21 年 12 月 8 日 (火) 17:00～18:30
2. 場 所：社会福祉センター 4 階
3. 出席者：石山、市川、井上、朽名、篠田、鈴木、田中、滑川、矢島 (欠) 吉田、岸
4. 議 題

(1) 都道府県ぱあとなあ担当者会議報告 (11 月 28 日～29 日開催)

参加者：鈴木・吉田

- ・新井誠氏の基調講演「成年後見制度をめぐる昨今の動向と課題」
思ったより受任件数が伸びてない・・・という内容
- ・ぱあとなあからの報告として、権利擁護部会からの報告・成年後見委員会からの報告 (ブロック別ぱあとなあ担当者会議報告・最高裁判所との協議の報告・人材養成と研修の在り方について・成年後見活動におけるリスクマネジメントについて・インシデントレポート、報告書について)
- ・支部におけるリスクマネジメントについて、リスクへの対応、報告書あり方等について)

活動報告から報告書上は何の問題もないと読めても、支部でいろいろな問題 (事故が) 発生している。誰に損害がいくか?→被後見人→会

〇〇な状況になる恐れがあるを回避する。リスクに対応する力がスーパーバイザーに要求される。医療契約はできるが治療契約はできない。

リスクマネジメントの面から後見受任は勤務している人は 3 件まで、開業している人は 10 件が限度ではないか。老々後見もリスクになるため、受任者の年齢も問題になる。

(2) 平成 22 年度事業及び予算案について

別添資料参照

(3) 各担当より

①研修担当

第 2 回登録員研修 (11 月 14 日午後実施) の報告

参加者～30 名

「成年後見活動におけるリスクについて」と題する研修が直近に本部で行われていたこと。その内容を支部内に普及させて欲しいという本部からの要請を受けて、「成年後見活動におけるリスクについて」という内容で、4 グループに分かれて 2 事例の検討を演習形式で行いました。

次回は

2 月 14 日 (日) 「電話相談員研修」を実施予定

担当：朽名・石山

接遇対応レベルの問題、相談援助職としての知識不足が問題となっており電話相談員のレベルアップを図るための研修を実施する。ぱあとなあニュースで募集する。

②広報 「ばあとなあニュース 2 1 月号」の発行について

内容、執筆担当について

活用講座報告、登録員研修報告、電話相談員研修のおしらせ、ばあとなあ担当者会議報告、メーリングリストへの参加呼びかけ、家裁との連絡会議（3 月予定）等

原稿締め切り 1 月 9 日

③虐待防止 特になし

④コーディネート 今年度になって現在まで 5 1 件（月 5 ～ 6 件のペースで家裁から依頼が挙がっている～木更津家裁からが多い）

⑤会 計 特になし

⑥電話相談 電話相談員研修（2 月 1 4 日）について

担当 朽名・石山

接遇対応レベルの問題、相談援助職としての知識の不足が問題となっており電話相談員のレベルアップを図るための研修を実施する。

(4) その他

- ・共同募金会へ助成金の申請を行い、「一問一答集」を増刷する。
- ・今年度事業報告・22 年度事業計画について

次回運営委員会 平成 2 2 年 2 月 8 日（月） 1 8 : 0 0 ～

B、法人後見辞任について

法人後見を受任していた、「八日市場支部家裁平成 1 9 年（家）第 5 1 9 号」については、かねてから委員会で、法人後見を辞任し、新たに事務執行者が後見人として受任するよう家裁へ申し立てたいと検討していたところですが、このたび事務執行者より 2 年間の活動報告書と報酬申し立て書併せて辞任・受任申し立て書が届きました。今後家裁へ提出予定。

【事務局報告】

○ 講師派遣

- ・ 平成 21 年度成年後見制度個別相談会 1 月 31 日 ぱあとなあ相談員派遣 10 名
- ・ 千葉県精神保健福祉センター 第 2 回デイケア家族教室 2 月 7 日 吉田理事
- ・ 酒々井町教育委員会 しすいタウンカレッジ 2 月 3 日 中山 敏子

○ 後援

- ・ 社会福祉士養成校協会 第 5 回社会福祉士実習教育推進大会 1 月 23 日

○ 来賓依頼

- ・ 千葉市介護支援専門員協議会新年会 1 月 30 日 林副会長
- ・ 千葉県作業療法士会記念式典 2 月 19 日 山崎会長
- ・ 千葉県理学療法士会記念式典 3 月 7 日 神山副会長

○ 県社協関係

- ・ 介護の魅力を語る千葉県フォーラム実行委員会第 8 回 12 月 11 日 林副会長
- ・ 第 2 回評議員会 12 月 14 日 林副会長
- ・ 千葉県福祉人材確保推進会議第 4 回 2 月 5 日 林副会長

○ その他

- ・ 千葉保護観察所 第 2 回連絡協議会開催 12 月 21 日 西沢 将行
- ・ 第 1 回千葉県地域リハビリテーション協議会 12 月 15 日 染野理事
- ・ 淑徳大学 合同ジョブフェア 2010 山本 誠一 2 月 8 日
- ・ 千葉県共同募金会 第 59 回 NHK 歳末たすけあい 配分金 300,000 円
- ・ 千葉県共同募金会 NHK 歳末たすけあい募金 1,153 円

**** 会員情報 ****

1 月 12 日現在 正会員:1,131 名 (新入会:1 名 転入:2 名)

➤ 1 月本部会員情報より

千葉市一人暮らし見守り支援事業 経過報告

1. プロジェクトチームの発足

メンバー：神山・目黒・岡本・稲永・矢島（包括部会）・野田（地元の会員）

2. これまでの経過

12月26日 18:00～ 第1回プロジェクト会議開催

・事業の概略 ・予算関係の確認 ・開設準備の段取り等

その他、開設準備に係る備品の整備、什器の搬入、関係機関等の連絡は随時。

3. 職員（従事者）について

相談員は候補者を対象に1月2日に面接を行った。

訪問員は現在募集中。

4. その他

・当初集会室4で開設予定だったが、急遽集会室2に変更された。それに伴い、電話回線の設置が当初の予定よりも遅れている（1月25日開通予定）。

・1月14日より目黒・野田両氏による勤務の開始。

相談所の概要

名称「み・まも～れ幸町」

住所：千葉市美浜区幸町2-12-5 団地中央集会所内 相談室2

電話：043(441)4467 （FAX同、番号は未確定）

対象地区：美浜区幸町2丁目の1部（5,741世帯）